

「7 ひなんしよで すごすことになったら」

- 学習のねらい： 1. 避難所とはどんなところかを絵や写真で知る。
2. 避難所生活のために必要な物資はどんなものがあるか知る。
3. 避難所で守るルールやマナーを知る。

(指導上のポイント)

◆絵に描かれている内容

- ①炊き出し
- ②情報の掲示板
- ③避難者受付
- ④避難者の診療
- ⑤配給品の受け渡し
- ⑥家から持ち出した非常用持ち出し品のチェック
- ⑦高齢者の移動の手助け
- ⑧けがの治療
- ⑨赤ちゃんに授乳

絵に描かれている以外には、仮設トイレ・風呂、救援物資の仕分けなどがある。

◆地域の避難所がどこか、児童が通う学校が避難所に指定されているかを指導する。

◆学校の体育館が避難所に指定されている場合、避難してきた人たちが学校の体育館が混雑することや、授業で体育館が使用できなくなることに気づかせる。

◆避難所での生活は、日常の集団生活と同様にルールやマナーを守ることが大切であることを指導する。

例) 大人の指示に従う。
大声で騒がない。

(次年度以降の展開例)

- ・被災者の話や手記などにふれさせる。
 - ・自治体の協力を得て、防災倉庫等の中を見学する。
- などが考えられる。

7 ひなんしよで すごすことになったら

(1) ひなんしよって どんどころ

ひなんしよは どんどころでしようか? 下の えとしゃしんを みて かんがえて みましよう。



炊き出して避難者の食事の用意をする。
けがをしたら大人の人に治療をお願いする。
多くの人が集団生活するので寝る場所が狭い。風邪が広がりやすい。他人に迷惑にならないようにする。等

【ひなんしよの ようす】
たくさんひなんしよ



きゅう水をまつひと



ゴミの山



15

★体験談 (宮城県石巻市立門脇中学校生徒)

東日本大震災で、当たり前でできていた学校生活が当たり前でできないという苦しみを味わいました。また、避難所の方たちと同じ学校での不自由な生活で、我慢しなければならないことも多くありました。何事にも「できない。やれない。」と弱音を吐かず、方法などを変えて自分たちで工夫した学校生活を送りました。「人は非常時の振る舞いにこそ、その人の人間性が現れる」と言います。この生活でまさに人の温かさを感じ、成長することができました。

H24.8「子ども防災サミット in みえ」より

(2) ひなんしよで きをつけることは

ひなんしよで きをつけなければ ならないことや まもらなければ ならないことは なんて しょうか? 下の えを みて かんがえたことを かいて みましょう。

「もう ねる じかん なのに」



騒がない。早く寝る。

「あの子 どこに いるの」



自分勝手に動かない。
家族に居場所を伝える。

「みんなに くばりたいのに」

整列して順番を待つ。
係員の指示に従う。



(3) ひなんしよに もっていくものは

ひなんしよに もっていくものを かんがえて かいて みましょう。

(れい)



水、乾パン、ビスケット、タオル、
トイレットペーパー、ヘルメット
など

16

(指導上のポイント)

◆助け合う、譲り合う、配慮し合うなどのルールやマナーを守って避難生活をする事の大切さを指導する。

◆各回答の補足説明

(左上)

大勢の人が同じ空間に集まっているので、誰かが騒いでいると、他の人たちが休めない。

(右上)

大勢の人たちが集まっており、人の出入りも頻繁にあるので、迷子になる。

(下)

配給の列への割り込みや物資の少なさのクレームは、全体の秩序を乱し、円滑な避難所運営を阻害する。

◆その他に、ペットの世話、断水によるトイレ詰り、エコノミークラス症候群などの問題が生じることを指導する。

(指導上のポイント)

◆普段から準備することの大切さ、家族で話し合っておくことの必要性について指導する。

◆非常用持ち出し品の主なもの

【水】1人あたり1日3ℓが目安

【食料】乾パン、ビスケット、クラッカーなど

(軽くて長期間保存できるもの)

【衣類】タオル、ジャンパーなど(季節により持って行くものが変わる)

【日用品】トイレットペーパー、食品用ラップ、軍手

【医薬品】傷薬、ばんそうこう、ガーゼ

【避難用品】ヘルメット、防災ずきん、懐中電灯、携帯ラジオ

◆量や重さのため、持ち出しに限界があることに気づかせる。

(確認)

避難所がどのような場所であるか、また、気をつけるべき点が多数あることを理解できたか。

【発展問題】

○避難生活に備えて、普段からどのような準備が必要でしょうか。

(回答例) 非常用持ち出し品を用意する。家族で避難場所や避難ルートについて話し合いをする。など